

椿説弓張月

後篇

叁

^13
3908
9



二節時真を... 縁由ハ龍江鬼夜又ハも告... 朝稚ハ人... 遺とて計策を設... 頼朝稚ハ父の... 正しはく... 頃日竹を削... 紙ハ粘... 城中之... かくち... 貸... 新羅之... 義光

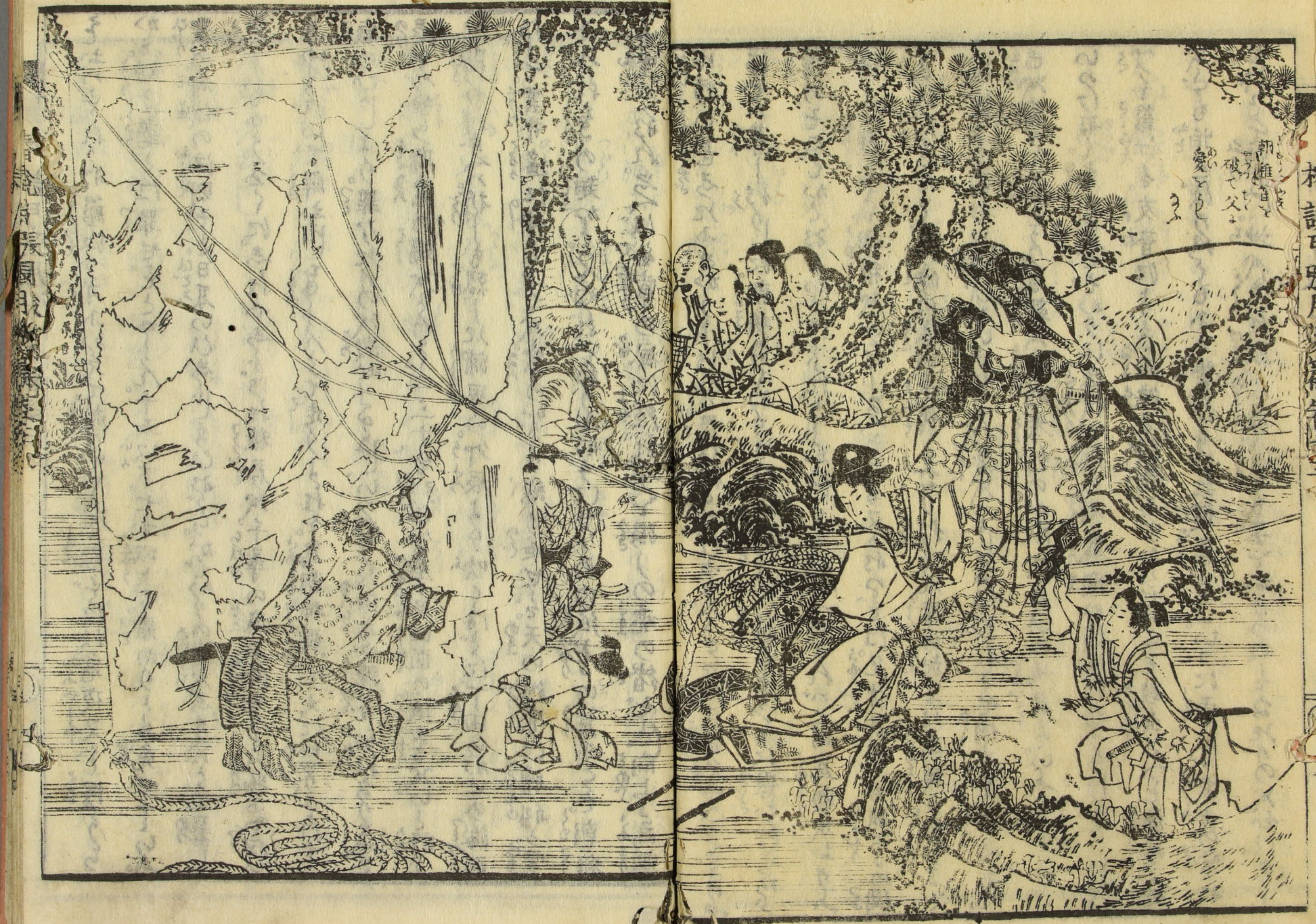
八幡太郎 美家の舎弟

ぬく

おその藝中熟... 秘曲傳授... 抑との笛... 吟... 紙... 朝稚ハ... 勃然として... 爪... とも罵... とも... の笛...

清和天皇...

三



朝推
破て父
愛と
ま

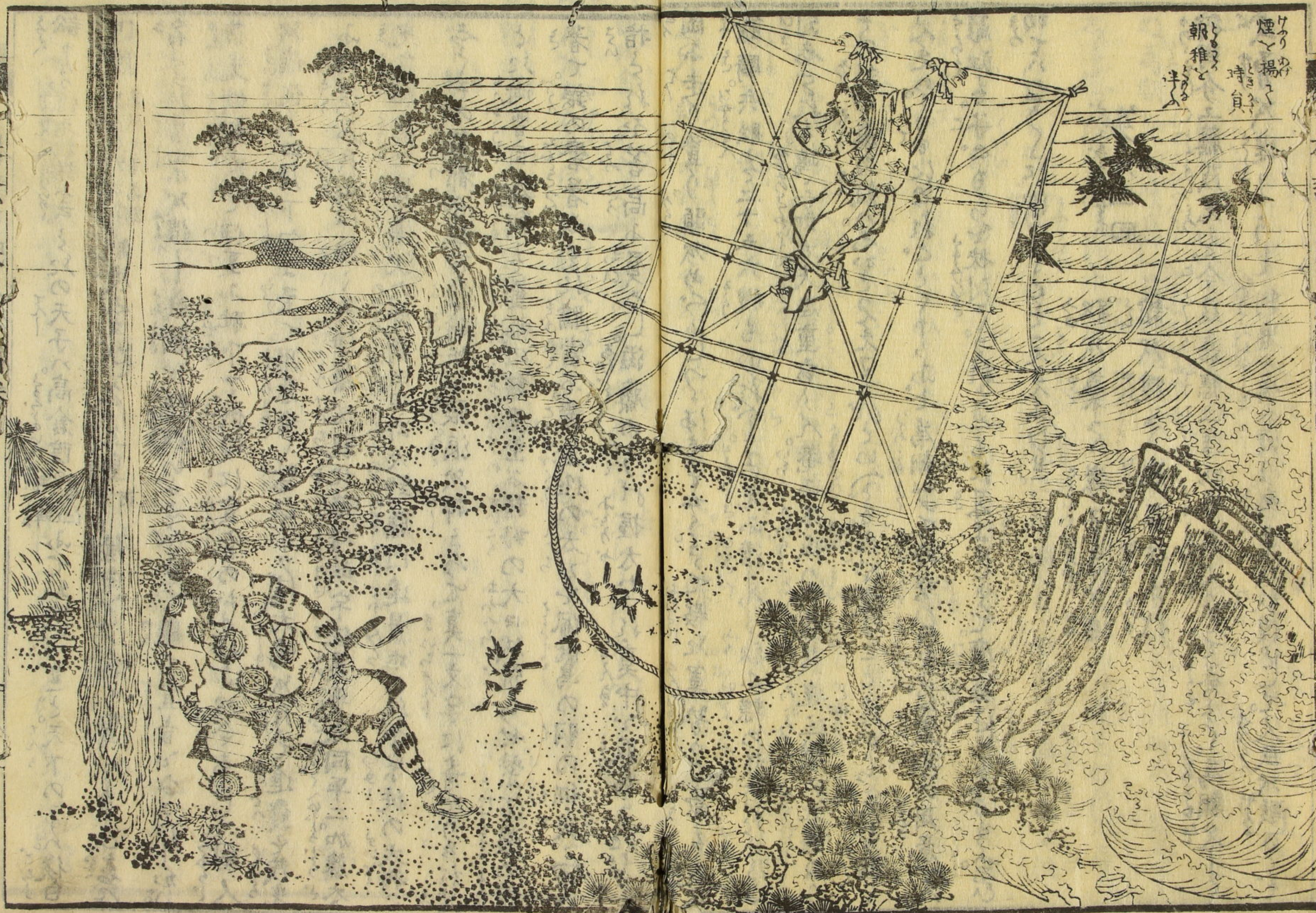
物語
三

のや。此はりつむりの飄々を雲の旗まに天引く。しぐもあふびりりか。四人の
 尻居不控と坐し。あふ痛ぢやといふ声。うらごもに啼て。されは汝も雲間の社
 鶴死出の田長の稚子が魂かてええてめりぬる。時しもぬれ酉戌の方に當り
 て。霞霧と閃光昇れ。時負が暗号の蜂夥蒼天。翻翻ゆり。為朝信也
 えまのいして。あふと莞念と笑あふ。能江鬼夜又頭。深田二郎時負
 と。謀合し。朝推忌が下田の浦小著たす。満足あ
 つと。忽地密計。いひ當られ。為朝安あ相違して。は汝本件の事
 成。あつてやめれと言へ。能江法然と涙涙。その足利義康のより。密小
 使者。あつて。茂光が護養あふ。い身の久危はしと告あふ。推君のうら。一
 方成を受く。養ひ進んでんとし。せまひ。鬼夜又ととも。に竊はす。ま
 ちりて。は。今や。すえも。聖と。し。ま。か。む。結。も。結。て。し。い。出。た。ま。ら。は。

さもり。竹。あ。り。し。く。重代の名。笛。う。り。と。偽。り。て。朝。推。君。あ。碎。け。し。れ。成。越
 度。に。て。紙。書。に。挿。り。名。命。運。成。神。に。似。て。下。田。上。赴。じ。ま。あ。計。畧。と。世。成
 憚。り。名。成。惜。と。あ。賢。慮。の。微妙。小。出。れば。い。て。恨。み。ま。れ。る。と。され。と。君
 の。心。子。あ。り。も。あ。つ。か。腹。小。生。ま。る。を。恩。愛。と。か。ら。う。ぬ。の。を。好。む。て。匿。こ
 ん。心。と。海。の中。お。ぼ。つ。つ。わ。い。く。公。れ。る。も。本。意。う。け。り。と。か。れ。口。説。は。鬼
 夜。又。も。論。成。を。な。た。某。ホ。豫。て。縁。故。と。あ。れ。と。い。ふ。も。あ。じ。ま。ら。ぬ。か。澳。り。や
 と。これ。と。お。ほ。せ。し。る。人。指。さ。ら。目。今。測。人。ホ。が。紙。書。成。揚。ま。あ。ん。と。て。外。面。あ
 集。合。と。れ。ば。い。あ。い。あ。い。か。ほ。小。奉。勤。半。あ。一。練。と。ま。り。し。を。これ。と。あ。し。ま。

と。て。と。じ。め。て。明。こ。主。従。が。胸。も。割。け。成。合。と。れ。お。と。い。ひ。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。

に。の。り。け。れ。よ。と。て。為。朝。の。感。嘆。あ。く。已。ま。ぬ。け。為。頼。も。嶋。君。も。これ。を。分。て。中
 安堵の心ひを。あ。て。の。朝。推。へ。足。利。と。あ。ん。へ。赴。た。ま。ひ。り。と。あ。あ。い。し。と。物。体



煙の揚る
朝雅
時負
半

林言日

天

高倉院高倉の御父ありの天子ハ高倉院御諱少ておかしけり。天下の事ハ後白

河院高倉の御父あり制度をまじへば上皇後白縁由を食て驚せり。皇

名を以て勇士ホ催し。為朝以誅伐の事とて聽て宜旨となさる。か

茂光欣然として伊豆不馳下て俄頃せんに宜旨のおりひき以令あはして國人

以催促し四月下旬に至て用意全く整ひ。大鳴以斥て進發を茂光

小相後山兵士は誰ぞ伊藤祐親北條時政宇佐美平大同平二加藤太

光貞加藤二景廉沢六郎新田四郎天野藤内遠景ホこれを宗徒の大將と

あく。その勢都合五百餘騎帳と張浪以押して真一文字に寄たり。其

と以御曹司為朝と金禰の鎧直垂不精好の大は張らせ。紫下濃の鎧

著て銀の磨著あは。膳當不黄金作の太刀と佩鷲の羽の征矢二十六

指とれを。若高不負さ。滋藤の弓れ握太は。真中と取し。又た

八龍以金少て打。白星の五枚兎以。暮夜又は。床ル不係り。為頼

鳴君以右に侍。蘇江不酌以。て。寂期の五以。め。び。した。入。を。冠者

為頼幸。は。切。雅。とい。ども。勇。の。萌。の。あ。れ。と。う。び。れ。の。時。魁。の。や。く

に。お。し。移。れ。鬼。夜。又。も。み。お。て。ほ。う。い。や。あ。に。至。り。て。後。悔。途。に。た。不。似。と。ん。と

君智仁勇の三徳以兼。は。い。む。が。ら。武運微くして鳴守となり。た。う。う。へ。の

能。以。區。と。光。を。瘞。み。時。以。行。ま。る。か。り。に。勅。不。嶋。以。管。領。して。茂。光。忠。重。不

指。と。ま。し。く。後。不。傳。人。の。舌。頭。に。係。れ。し。年。末。の。志。以。伸。れ。不。及。び。し。陸

く東海の果に後以。とり。ま。か。こと。いと。巧。を。し。と。中。け。れ。ば。為。朝。莞。尔。と。う。ら。笑。さ

思。中。の。鬼。夜。又。も。れ。保。元。不。勅。勤。以。衆。り。て。配。軍。と。お。り。し。う。と。六。の。十。餘。年。の。南

処の主となつ。と。う。ろ。ろ。は。樂。し。め。り。その。以。前。も。九。箇。國。以。管。領。し。た。之。以

出。た。は。し。め。り。筑。紫。少。て。菊。池。原。田。以。始。して。西。國。の。の。の。も。は。う。が。出。勇

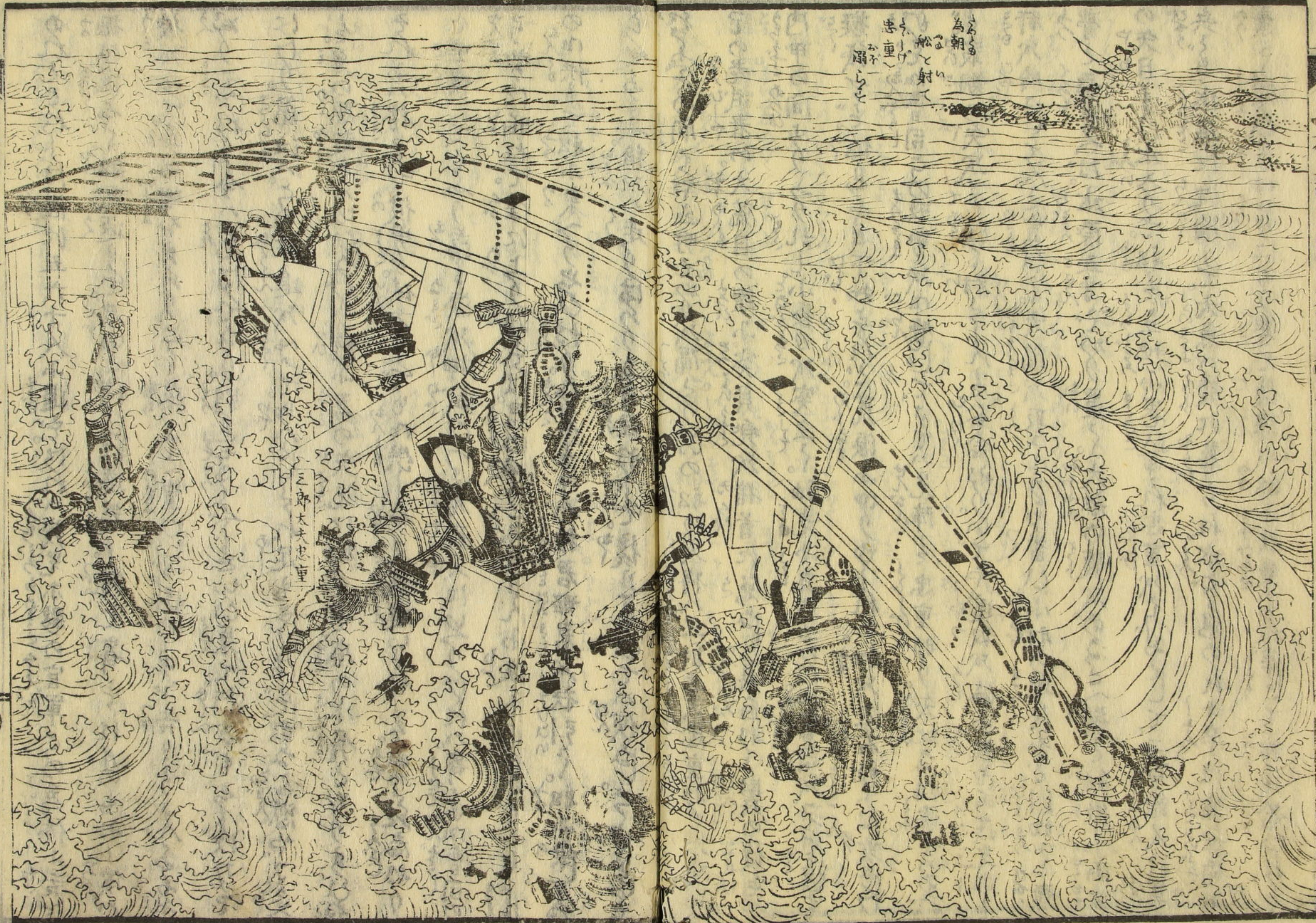
の極致なりぬらん。平治めて源平の軍兵殊ふ武藏相模の即處置ともころ
弓勢はありぬらん。その対のうのどもは甲曹以鑑ひ弓矢以帶くたるかろく。
素山子おも答アてぞあんとらん。その成爲朝中向つて弓を奪へるもあえ
と大將をゆがみ平氏殺害内者ハ茂光忠重形も。ちかやうなれ合戦ハせ
せも憎しとあり。奴原以射殺ちく。悉く海ふ洗んとさし。易けれは終存
命もつもあつぬ。月の益の殺生をして何せん。ふほで死びてのりけれハ偏也
も立ちほりて。父の意欲ハ遂潰岐院以位小復し。ちかやとそんごもあれ
昔年説法をせり。欲知過去因見其現在果。欲知未來因見其現在
果としり。これハ罪以造れぬ。のハ必悪趣小清。ちかや。然れとも弓矢とれ。舟乃
あつひとて蝸牛の角に争ひ。ゆたれと殺し。死ハ厭つと。それ總角のむしり。
二十餘度の合戦に。人の命と断と。數以ちとむしり。もがの敵以て。非分の
その成討て。才の樂に田獵して鹿を殺さば。又漁獵以て鱗を捕して神明
宗敬。佛陀以念誦し。ちかや。天下に名をたふれ。としくも。過世の業因由て
かく煩悩以。今生の悪業不因。末世の苦難多。ひちたれと。し。十年以
其附從ひける者。そのハ。譜代相傳の家。隸おもあつね。彼亦以殺せん。不便
ありとて。おのく。形見と。与一。可嘆に説諭。ちかや。落し。ちかや。あつ。衆皆數以の
涙ふかたれ。遺憾以。不出去け。為朝今。ちかや。易し。とて。飾。ちかや。弓矢打物
瓜海。棄。せ。後。床。以。ちかや。出。ちかや。江。以。ちかや。今。磯。方。小。出。て。
敵の分際。以。ちかや。と。おの。に。爲。頼。おも。取。期。の。用意。を。ちかや。嶋。君。と。い。て。推。し。
て。推。し。女子。の。み。お。り。又。彫。江。を。忠。重。が。女。兒。ちかや。れ。敵。も。眼。以。ちかや。か。ちかや。ん。
と。か。く。に。生。活。て。な。れ。迹。を。ちかや。吊。し。と。宣。ハ。籠。江。涙。は。し。ちかや。て。世。おも。君。おも。跡。
と。ちかや。父。忠。重。が。故。ちかや。り。て。惜。か。ちかや。ね。命。以。助。ら。ちかや。とも。何。の。面。目。ちかや。け。ちかや。君。ちかや。の。

新編 源氏物語 卷之三十三

さもにこの城の浪に屍曝さんらも願くはれとておりの定し氣なきは
 爲朝はあはれ説諭し又鬼夜又近く招いて汝のつがゆりあはれすは館の
 周ふ柴を積み推しの火刺殺して爲朝が腹を切れたる速に火を放し
 ちろろひりやと見えおれ一人残りさほりされ後卒にうた待て諸の
 へおれ人の影江とつもろりや爲頼も鳴君もなまふろひれをいへ
 とやく歸了なま人のまりに敵を悔いて過る志多しそとて目送れ親子主従の
 あれがこの世のつれもあはれやあはれやあはれはらの杜仲の雲をかき拂ひかて
 ぞ見えどゆりもふさねね小鬼夜又はかしく立めぐりて柴草を積み
 今とからとあひしうの影江よりりりれはの曹司の既に必死に究る人も某つ
 おりひめつらひか今度討ちた向うはるる全く茂光が私の遺恨にもれり
 やらとて自殺志ありんは潔く小似と大死なり脱れほろろ落ちて時次結
 小あかどかくめれとあひしうの豫て秘の准はもいじあはれとやこのと
 落多しう八郎嶋へは然れ某亦御曹司を諫して中て追著しちるめ
 さいといそがしめれを影江とれはせて頼り人の志うね君姫君はあひ
 されのれは身かたの父上とりぬるもに落しはわらせん願ひけほどつら
 従ひちるがじ父のよかぬら清ゆるにいく度君に疑色今亦くは脱れん
 と命惜うに身あはれらとに勇れは曹司に人敵に背かえははれし
 と人もしられ君ももろれも人いとちとて立もあがはれ頼もささ
 中うの影江いふもしなり最期の用意はせよと父の仰はるの死いそ
 所容と落られづ口潔く自殺して名とらの嶋にさぐんとておりの切
 の苜麻の中おれ蓬なり鬼夜又すて感激し民間市井の童形もさ
 めておれ耐あははれど物の用あは立きても足意縁なれづたは源

新編 源氏物語 卷之三十三

家の稚君にておれされよ。あうれふ船江の宮ふとと海に自分一己の名をまめと。
 忠義とはいひがし。故いうやこおれはあふとにて死にまら。稚君も自殺になまひ。
 此曹司といふもはらねり。こればむろの惑ひあて。二人の主君は殺しなまらん。
 答へ忠重の不我小勝よりかどりれぬにまひはむろを。浅はしくいへと。
 居丈高なるて速足は。船江と當然の理に。かきめて固辞人申うもあ。げふも
 ひ誤り。つがこはりて。此曹司は父子は殺し。まらんや。こもかくも君の心なるか
 んやうふ。計りい多人と。意と折しも。嚮ふ為朝小使ひて。渚の方へ赴せ。二人
 の士卒喘く走り。大床の下に跪せ。息も吐ぬ。さういふ。はては討ての
 大將軍狩野介茂光以下の官軍。之郎太夫忠重は御道として。真先に彼船と
 漕し。曳声揚ぐ。攻寄せり。そのとら。此曹司を。杖小携け。沖の方へ又まじ
 なるへ一陣の船。兵士二百餘人射向の袖は差挿し。船は乗傾け。渚らかられ
 ねふ。その間とや三町ばかり隔り。この船の大將の三郎太夫忠重は。内甲の
 この老武者の大荒目の鎧。突貝兎猪首に。急は。真白の。髯の。後毛を
 内甲の間より。乱し。小長刀は突立。袖先小立められ。此曹司は。又て。逆も
 擬議せ。と係と。と下知され。荒浪よりゆられて。船は左右は。は乗は。は
 船。此曹司との取勢。は。驚いて。先陣を。忠重は。矢比。は。遠く。あれ
 と。最期の矢。は。射。念あり。いて。や。這奴。海。沈めて。茂光。あ
 肝が。冷して。んと。宣ひ。大鎧。取。ら。番ひ。小肘の。廻れ。や。引。切。く。標
 幣と。發。ま。は。水際。五。寸。む。かり。置く。大船の。腹。は。あ。さ。へ。衝。と。射。徹。し。兩。方
 の。矢。目。より。水。入り。て。船。と。立。地。小。巻。込。まれ。忠。重。は。う。め。して。二。百。餘。人。は。軍
 兵。も。水。底。に。沈。淪。して。大。魚。の。腹。に。葬。られ。水。と。流。れ。れ。士。卒。は。痛。極。極。小
 乗。く。標。ひ。弓。の。苦。に。う。り。著。て。後。陣。の。船。小。扶。乗。られ。辛。じて。命。は。捨。て。れ。と



為朝
船と射
忠重
溺す

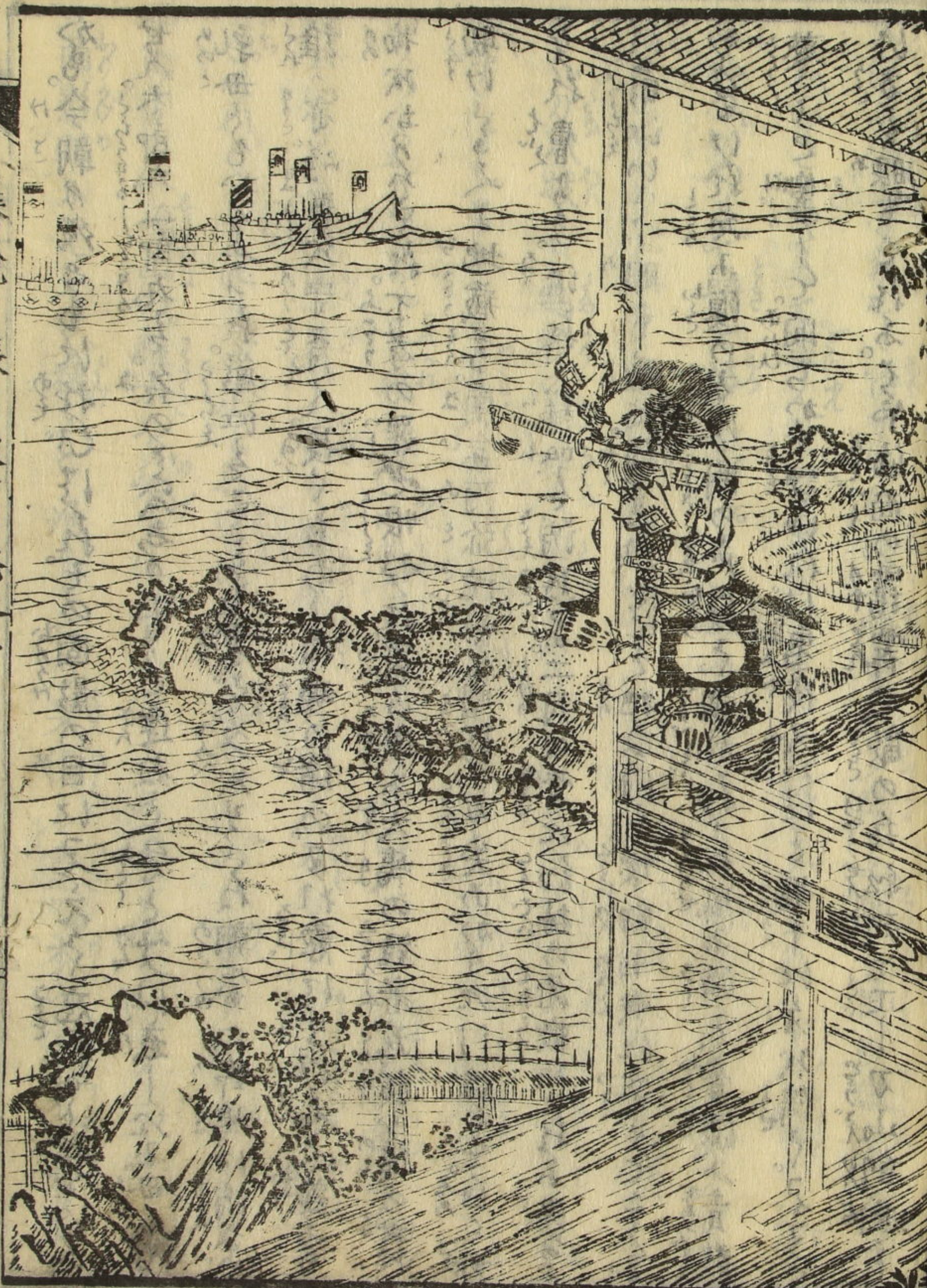
三郎大夫忠重

あれど。これらは僅に五六百人。お退ぞ。われは茂光、ホ夥の官軍。この為、体小言と
振ひ慌ろく。船は返して。只らさげらるる遠巻。續て寄とれるものも。お僕に
彼処。みて。身の暇をあり。こゝ落よと宣ひし。が。そのゆゑ。告さうら。人をも。あ
ゆり。まわり。今。も。ほ。ご。あり。別。も。ま。ご。といひ。果て。行。方。も。あ。は。か。り。て
に。けり。龍江。への。注。進。は。て。お。人。と。い。は。れ。足。も。さ。ほ。ど。ゆ。か。る。戀。や。こ。お。交
と。身。の。悪。敷。と。い。ひ。ひ。る。が。は。續。お。君。の。矢。先。に。か。つ。て。底。の。水。層。と。な。り。ま。ひ。ぬ。
それ。お。信。子。と。彼。男。が。破。方。まで。も。お。供。し。今。又。注。進。し。せ。よ。と。愛。と。は。志。お。り
と。嗟。嘆。して。こ。ろ。り。落。涙。お。押。拭。ひ。つ。鬼。夜。又。に。し。り。け。け。の。奇。も。お。曹。司。の
引。勢。に。怕。れ。て。陸。に。上。り。び。び。は。君。の。ゆ。り。ま。は。る。人。お。ね。も。ゆ。ひ。は。は。は。り。は。君
のお。供。して。船。お。乗。ご。う。も。ひ。け。り。お。身。と。ま。ら。ず。維。君。お。娘。お。扶。引。く。船。お。乗。ご。か
らせ。ま。り。維。君。お。走。り。は。り。の。も。自。在。お。な。り。て。後。と。ま。ひ。て。便。は。し。と。く。と。と。そ

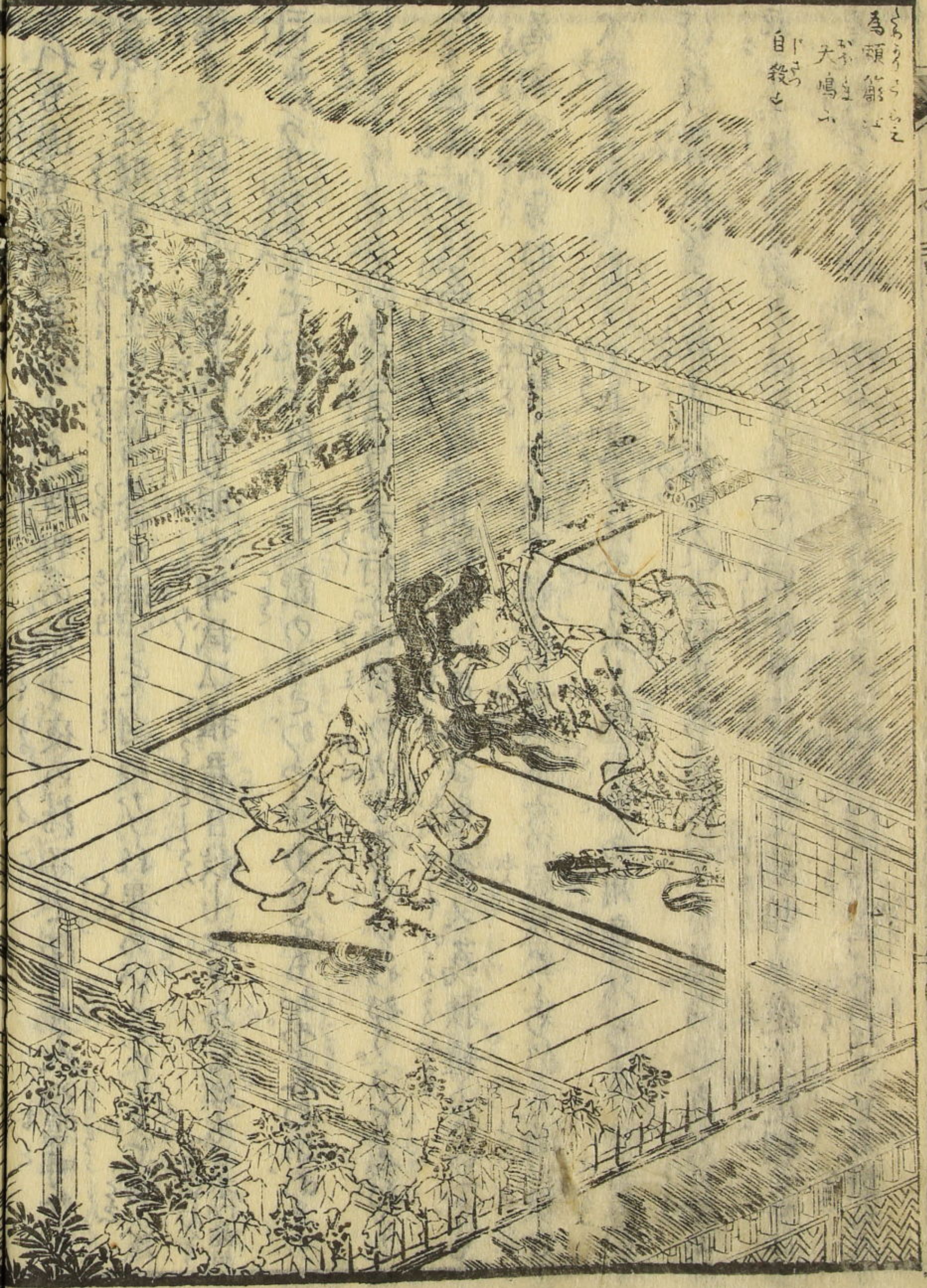
りて。為頼の袴の。は。お。引。揚。ご。か。せ。嶋。君。の。襟。に。錦。の。護。身。裏。と。か。は。お。ど
それ。お。鬼。夜。お。その。氣。色。と。な。て。さ。て。は。ら。の。婦。人。お。忠。重。の。死。せ。と。父。て。君。お。の。死
と。父。お。の。内。お。い。よ。は。死。お。究。と。た。よ。と。曉。け。ら。一。深。み。も。及。つ。は。兼。引。と。嶋。君。を
か。抱。た。為。頼。の。お。身。お。引。く。走。り。お。れ。お。稚。子。と。ま。ら。ず。く。え。ら。り。龍。江。早
く。父。上。の。お。供。あ。り。ま。あ。ひ。て。ま。と。宣。お。も。い。と。胸。の。こ。も。か。り。て。と。く。と。し。と。い
は。意。を。轉。轉。て。お。泣。お。け。け。か。て。鬼。夜。又。に。敵。の。向。ま。れ。諸。に。走。り。ゆ。て。船。底
に。為。頼。嶋。君。お。死。お。の。し。進。と。せ。直。に。為。朝。の。お。身。お。ね。娘。方。に。あ。り。て。傍。つ。て。り。し
けれ。お。維。君。お。娘。君。お。は。龍。江。お。傳。く。船。お。乗。ご。滅。お。ぬ。お。洲。人。一。兩。人。お。相。語。て。和
鳴。す。て。落。し。ほ。か。り。せ。たり。茂。光。私。の。意。慈。と。會。て。討。つ。て。お。死。ま。り。し。と。い。は。れ。お。自。殺
と。多。り。ん。ち。い。と。朽。ち。長。け。れ。と。僕。お。名。字。お。ま。は。り。て。館。お。火。お。放。煙。の。中。お。い
腹。お。切。ぬ。お。らん。君。と。その。隙。お。ね。に。召。れ。稚。子。と。ま。ら。ず。い。ら。に。な。り。て。八。郎。嶋

へん退められし。こやしも果たふ。為朝大に驚れ。いふ。子どもらわの。船は
 大傳と落した。なれ。あ。いられ。汝。米配う。な。為朝。何ゆ。ふ。命。惜。一
 人。殺。さ。ふ。え。さ。ひ。も。か。り。ぬ。さ。り。と。て。藤。入。さ。る。も。わ。の。鬼。夜。又。多
 ほ。と。あ。言。語。盡。し。忠。臣。君。の。命。お。か。れ。る。か。和。漢。に。その。例。多。し。紀。信
 が。馬。に。焼。し。真。根。子。が。み。づ。から。剣。さ。れ。故。り。の。君。と。り。く。物。語。さ。ふ。さ。さ。く。
 を。あ。り。あ。り。て。の。僕。は。全。佛。世。界。の。孤。鳴。子。生。れ。一。文。不。通。の。荒。夷。に。れ。と。日。馬
 君。の。教。諭。し。の。人。の。善。悪。も。同。悟。し。恩。の。為。お。捨。れ。命。を。さ。は。り。と。惜
 ず。だ。か。く。ほ。く。す。も。大。聴。多。し。は。落。し。進。せ。し。れ。維。君。姫。君。も。終。は。歎。お
 生。捕。ら。れ。死。後。の。恥。次。送。し。多。い。な。ん。ほ。び。く。お。不。乗。た。身。と。て。さ。り。お。く。も。勸。め
 そ。為。朝。さ。り。お。ち。あ。に。違。ひ。く。い。う。も。も。す。べ。え。身。一。足。も。落。死。人。と。は。あ。ひ
 多。る。り。が。鬼。夜。又。命。に。か。り。と。い。ふ。誠。忠。も。止。ま。く。維。子。ら。ち。歎。か。す
 さ。ん。も。念。さ。り。と。や。せ。は。じ。か。く。や。せ。は。じ。ゆ。も。な。海。感。ひ。さ。り。鬼。夜。又。頼。り。ま
 練。り。し。て。意。の。袖。次。引。け。件。の。渚。お。誘。引。彼。船。に。乗。し。ま。か。す。れ。小。天。の。忠
 臣。大。憐。み。義。士。を。祐。多。い。けん。俄。頃。に。海。上。雷。な。ら。て。咫。尺。の。間。も。え。え。さ。り。終。は。
 寄。多。の。船。も。は。れ。次。あ。ら。ば。為。朝。も。西。國。あ。て。人。と。お。り。又。大。嶋。に。十。餘。年。の。月
 日。次。送。り。な。身。い。し。ほ。に。船。次。遣。れ。と。陸。次。ゆ。が。ご。と。く。さ。り。か。り。頼。次。ら。の。さ
 糟。走。り。し。維。人。の。船。も。あ。り。び。て。せ。き。れ。と。も。あ。り。身。ら。ん。船。江。も。追。さ。る。と。さ。り
 か。も。な。れ。し。と。て。利。誘。次。を。さ。り。い。そ。だ。も。は。鬼。夜。又。と。や。お。ら。か。て。野。嶋。の
 館。に。走。り。ゆ。れ。お。船。江。も。只。ひ。と。り。樓。も。あ。り。て。香。次。焼。經。を。誦。し。居。り。し。が。
 鬼。夜。又。が。ゆ。り。あ。ら。れ。を。さ。り。ま。づ。な。経。次。巻。あ。ら。い。う。に。曹。司。も。あ。ら。は。破。方
 に。お。り。れ。歎。い。と。と。あ。り。と。お。り。に。鬼。夜。又。又。さ。り。身。衛。に。忠。重。乃。溺。死
 せ。と。あ。り。と。世。の。中。次。ら。う。な。身。を。殺。し。て。忠。孝。次。入。ま。り。せ。ん。と。お。り。ひ。定。め

へん退められし。こやしも果たふ。為朝大に驚れ。いふ。子どもらわの。船は
 大傳と落した。なれ。あ。いられ。汝。米配う。な。為朝。何ゆ。ふ。命。惜。一
 人。殺。さ。ふ。え。さ。ひ。も。か。り。ぬ。さ。り。と。て。藤。入。さ。る。も。わ。の。鬼。夜。又。多
 ほ。と。あ。言。語。盡。し。忠。臣。君。の。命。お。か。れ。る。か。和。漢。に。その。例。多。し。紀。信
 が。馬。に。焼。し。真。根。子。が。み。づ。から。剣。さ。れ。故。り。の。君。と。り。く。物。語。さ。ふ。さ。さ。く。
 を。あ。り。あ。り。て。の。僕。は。全。佛。世。界。の。孤。鳴。子。生。れ。一。文。不。通。の。荒。夷。に。れ。と。日。馬
 君。の。教。諭。し。の。人。の。善。悪。も。同。悟。し。恩。の。為。お。捨。れ。命。を。さ。は。り。と。惜
 ず。だ。か。く。ほ。く。す。も。大。聴。多。し。は。落。し。進。せ。し。れ。維。君。姫。君。も。終。は。歎。お
 生。捕。ら。れ。死。後。の。恥。次。送。し。多。い。な。ん。ほ。び。く。お。不。乗。た。身。と。て。さ。り。お。く。も。勸。め
 そ。為。朝。さ。り。お。ち。あ。に。違。ひ。く。い。う。も。も。す。べ。え。身。一。足。も。落。死。人。と。は。あ。ひ
 多。る。り。が。鬼。夜。又。命。に。か。り。と。い。ふ。誠。忠。も。止。ま。く。維。子。ら。ち。歎。か。す
 さ。ん。も。念。さ。り。と。や。せ。は。じ。か。く。や。せ。は。じ。ゆ。も。な。海。感。ひ。さ。り。鬼。夜。又。頼。り。ま
 練。り。し。て。意。の。袖。次。引。け。件。の。渚。お。誘。引。彼。船。に。乗。し。ま。か。す。れ。小。天。の。忠
 臣。大。憐。み。義。士。を。祐。多。い。けん。俄。頃。に。海。上。雷。な。ら。て。咫。尺。の。間。も。え。え。さ。り。終。は。
 寄。多。の。船。も。は。れ。次。あ。ら。ば。為。朝。も。西。國。あ。て。人。と。お。り。又。大。嶋。に。十。餘。年。の。月
 日。次。送。り。な。身。い。し。ほ。に。船。次。遣。れ。と。陸。次。ゆ。が。ご。と。く。さ。り。か。り。頼。次。ら。の。さ
 糟。走。り。し。維。人。の。船。も。あ。り。び。て。せ。き。れ。と。も。あ。り。身。ら。ん。船。江。も。追。さ。る。と。さ。り
 か。も。な。れ。し。と。て。利。誘。次。を。さ。り。い。そ。だ。も。は。鬼。夜。又。と。や。お。ら。か。て。野。嶋。の
 館。に。走。り。ゆ。れ。お。船。江。も。只。ひ。と。り。樓。も。あ。り。て。香。次。焼。經。を。誦。し。居。り。し。が。
 鬼。夜。又。が。ゆ。り。あ。ら。れ。を。さ。り。ま。づ。な。経。次。巻。あ。ら。い。う。に。曹。司。も。あ。ら。は。破。方
 に。お。り。れ。歎。い。と。と。あ。り。と。お。り。に。鬼。夜。又。又。さ。り。身。衛。に。忠。重。乃。溺。死
 せ。と。あ。り。と。世。の。中。次。ら。う。な。身。を。殺。し。て。忠。孝。次。入。ま。り。せ。ん。と。お。り。ひ。定。め



鳥頭
大鳴
自後

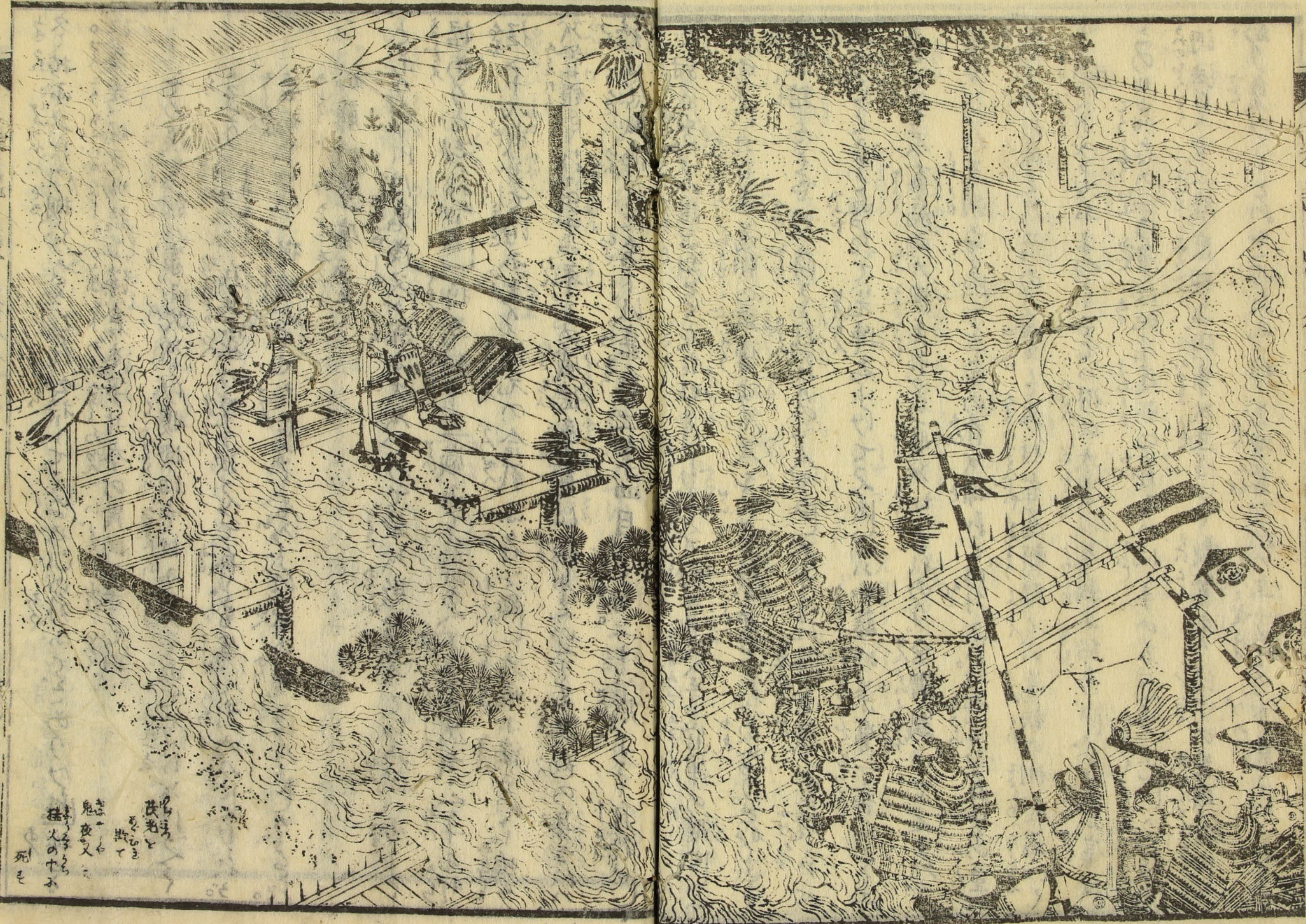


かも今朝の縁をもに抱ひはれ。その面影の目に又えそ。忘れやねといふ
 せん太郎丸。一即丸と名をも成ありてまご達ねと。父と父は慈しむ小母とも
 乳母ともおろしめられ。船江をよもも果ど夕次まらね朝雲の野嶋に消ま
 維。亦時君守育人長くもあね魂の渚の。それ熱にせれ事親も
 物成おろされ不孝の罪を恨おれ家の難お大鳴の冠者為頼が後の世に
 助けし人よ地藏を南無阿弥陀仏と唱け。刀尖あかりに引はれと白く妙
 刀の層より。流れる鮮血を消残す。二月の雪に紅梅の花散かかれ小異る
 江。船江いとも眼も瞶て後とはじと把るはと懐劍相喉に突くとま
 かとせられぬ小漁の方に。岡の声發と調乱れ。松風お浪り音添小責鼓
 撃くと御音して。回ちかくはゆれば。鬼夜又ハはと欄干に身代倚く。コト
 は方と眼もされふ。とや海面の霜霽て。敵の兵船列と正し。刀山劍樹と
 大洋小涌せられか。怪しはれ浪小映され夕陽と。闇王官の獄卒火の
 平次ひきまわりて罪人を迎ふるも。かやとおほろとろりおろ。とて駭しん
 軍かま。いつも時を移さる。し。猛お奇られらる。縛はしりもそのひほ。
 痛はしくくくも。とても助りまふに。あふに鬼夜又が介錯に。苦痛を脱し
 とく刀次拔く。為頼の御背に立ちまがり。これを目次因。項次伸唱名の声
 細中ほく。とくく。と宣うあそ。八郎嶋におりまら。太郎丸二即丸のゆ。未
 いうあくとおひひり。是彼おれ。也曹司の心子にハあれど。か。女兒の産あ
 ねか。い。る。恩義小。麻主あ。あ。又。後方
 立。これバ。二十にまご。足。ね。姿の花を匂やうに。かく賢なれハ浴おも。のり
 やあしに。嶋山の。稚木を。下。に。枯。と。と。ま。れ。も。ひ。り。子。の。長。女
 が。面。影。眼。小。え。と。と。猛。と。と。海。も。よ。り。果。涙。と。盡。本。の。露。末。の。雫。と

かくれしに。いづれを先いば。是後と。之と。おのひ定ぬ。と。能江中。や。く。え。え。
 了て。臆。一。あ。う。い。ひ。か。ひ。は。し。ま。は。も。も。の。れ。稚。君。の。苦。痛。小。ぼ。ぼ。と。や。る。
 に。女。く。し。た。日。耳。あ。も。似。げ。あ。く。と。と。と。勵。せ。鬼。夜。又。げ。ふ。と。点。び。今。ぞ。
 公。と。鬼。は。し。つ。閃。き。刀。の。上。よ。二。人。が。首。を。落。て。けり。か。く。て。鬼。夜。又。へ。泣。く。死。
 次。ひ。と。つ。小。奇。せ。念。佛。十。遍。ぞ。う。唱。け。茶。毘。虫。あ。ら。ね。用。意。の。柴。小。走。り。り。
 て。火。放。さ。り。折。し。も。烈。し。た。浦。風。に。蒼。蒼。より。軒。へ。吹。ら。つ。れ。大。厦。高。樓。忽。地。
 小。焰。と。な。り。く。燃。場。れ。鬼。夜。又。腹。巻。解。捨。く。立。止。が。ら。腹。を。切。り。猛。火。の。中。
 に。飛。入。り。て。灰。燼。と。り。り。て。失。お。けり。寄。子。の。軍。兵。と。目。今。火。光。の。場。を。見。
 て。猛。小。騷。だ。く。ら。と。り。や。為。朝。を。館。小。火。を。か。け。く。自。害。と。れ。と。お。ぼ。え。あり。
 寄。せ。よ。く。と。罵。り。あ。い。衆。皆。船。以。乗。り。て。馬。の。足。の。立。は。ど。あ。も。な。り。しか。ど。
 馬。も。も。追。お。り。て。お。も。く。と。打。乗。り。辛。じて。破。小。登。り。に。され。と。は。註。引。は。
 て。討。ん。と。謀。ふ。や。と。て。左。右。お。は。お。も。入。り。は。ど。是。全。く。官。軍。の。臆。也。其。
 も。の。只。日。末。為。朝。の。武。勇。よ。く。人。を。信。せ。れ。不。足。と。れ。が。故。あり。と。か。く。と。さ。
 行。館。と。も。焼。落。と。挂。れ。の。一。人。も。は。し。あ。り。に。長。倉。強。く。て。焼。け。り。は。
 捕。り。と。よ。と。呼。び。て。先。陣。あ。け。て。え。は。か。か。藤。次。景。廉。一。番。ふ。と。み。
 入。り。お。七。尺。有。高。の。大。男。を。お。ら。ら。腹。を。切。り。の。り。全。體。黜。り。て。え。え。と。さ。
 け。し。これ。為。朝。の。首。と。して。その。首。を。捕。れ。この。好。あ。ハ。九。才。な。れ。男。の。童。の。
 屍。と。女。け。屍。と。只。三。の。り。と。嶋。冠。者。為。頼。婦。人。ハ。為。朝。の。側。室。能。江。と。
 と。洲。人。ホ。ガ。リ。ス。お。り。て。ハ。件。の。大。男。は。為。朝。の。紛。也。は。して。景。廉。が。
 この。日。高。名。の。一。の。筆。に。紀。し。為。朝。の。首。を。同。年。の。五。月。洛。之。上。也。ハ。後。白。
 河。法。皇。を。二。條。京。極。小。御。車。に。立。は。し。く。獻。覽。の。り。洛。中。の。貴。賤。道。俗。皆。
 かり。集。ひ。く。これ。を。る。れ。志。れ。も。燒。首。な。れ。ハ。上。一。人。より。下。蔭。あ。い。と。れ。ま。ど。

新編 日本書紀 卷之三十三

七十九



新編 浮城物語 卷之三

浮城物語
卷之三
鬼夜叉
死人の中
死

冬、祐小父貞の棚ぶらふ。これ公持して。こゝろひの対ふて。こゝりけれ。拙る
に参考。保元物語。上。源倉本。半井本の異同。と奉て曰。

その後、為朝八家。小火。火。火。腹搔切。中柱。小背。をあて。ち杖。火。はう。く
さうり。中柱云云。兵衛家の焼。火。入。て。舟。も。寄。て。打。入。ん。じ。け。れ。ぶ。
虚死。中。ら。ん。と。猶。怖。ち。て。左。右。も。も。入。る。家。の。焼。後。人。じ。と。ら。ん。
加藤。次。景。康。云云。

とあり。かれは。鬼。夜。又。が。館。小。火。火。か。け。て。敵。火。敗。れ。り。と。い。ふ。説。ハ。少。く
据。あ。り。と。あ。る。が。抑。為。朝。十。三。歳。あ。て。筑。紫。へ。下。り。九。州。を。二。年。あ。打
往。へ。十。八。歳。あ。て。洛。小。上。り。保。元。の。合。戦。小。名。と。願。し。大。嶋。小。満。が。い。鳴。り
官。領。さ。ら。る。の。十。一。年。その。威。徳。年。夏。に。振。ち。つ。く。も。勅。勅。の。身。さ。れ。ば。
祐。小。志。成。神。お。に。至。り。嘉。應。二。年。四。月。下。旬。二。十。八。歳。あ。く。自。殺。せ。し

と世。み。い。ひ。ひ。り。て。け。り。けれ。バ。姓。耐。平。治。の。擾。乱。小。諸。源。こ。ろ。く。滅。せ
只。平。家。の。朝。恩。小。浴。し。て。官。位。俸。禄。意。お。ほ。う。せ。ど。と。い。ふ。と。は。為。朝
の。假。首。洛。へ。上。り。し。こ。ろ。何。め。の。あ。り。け。り

この。余。都。鄙。お。ぼ。く。人。小。贈。灸。せ。は。小。松。大。臣。重。盛。眉。火。撃。算。し。あ。れ
人。小。宣。あ。り。為。朝。と。あ。り。の。世。お。の。ん。ず。ん。茂。光。出。し。わ。か。れ。ず。質。首。火
捕。り。と。い。は。れ。れ。そ。密。通。め。に。その。人。ま。て。と。何。か。り。て。か。ハ。宣。あ。り
や。同。重。盛。甚。て。了。れ。街。の。落。首。に。よ。め。と。え。ん。あ。れ。り。彼。等。を。や。や。水。を。バ
朽。て。あ。れ。と。お。り。も。こ。水。元。洞。果。る。と。ま。お。り。之。け。れ。ど。彼。人。あ。り。存
命。て。あ。り。と。い。ふ。又。ふ。代。の。為。朝。と。い。へ。り。け。り。さ。は。為。朝。の。ゆ。く。と。さ。が
統。一。と。い。ふ。世。あ。も。出。子。孫。千。代。も。榮。ま。ん。と。い。ふ。と。即。ち。源。家。の。嫡

流れて武勇拔群あれのとねん。忠義存し。義武守。田横園羽。風
 あり。それ小弓矢と主せ。六下ハ掌にあら。し。茂光私の意趣。散
 散さん。あ。討ま。は。清と。も。為朝の歌。に。あ。に。欺。を。わ。り。と
 あり。又。よく。為朝終。ふ。志。の。ひ。よ。の。人。小。面。の。わ。を。を。か。ら。び
 一。且。志。成。の。く。も。家。の。仇。も。那。う。へ。ま。は。この。人。あり。と。宣。ひ。果
 中。れ。と。あり。重。盛。れ。先。見。か。れる。る。は。多。かり。是。と。て。あ。れ。為。朝。ハ
 その。日。鬼。夜。又。小。練。られ。と。あ。る。は。も。小。乘。と。利。嶋。の。か。え。落。と。し。し。り
 それ。と。あ。り。小。船。又。を。は。て。ハ。子。ど。も。ら。け。ハ。郎。嶋。へ。赴。れ。ん。と。て。い。く。も
 あ。れ。潮。不。ほ。り。し。つ。ら。ら。ち。う。り。枝。嶋。に。れ。末。嶋。小。船。又。歌。人。を
 夫。を。何。の。と。明。少。り。て。の。嶋。中。に。は。渡。海。の。難。儀。な。れ。小。か。し。速。く。其
 ほ。れ。と。不。志。識。なり。と。ひ。り。あ。ら。な。し。人。を。忍。地。に。底。に。推。兒。の。泣。声。を。あ。ら

怪し。と。て。か。て。板。子。又。反。揚。け。又。と。あ。り。の。あ。ま。痛。嶋。君。を。只。む。り。泣
 聞。て。あ。り。し。う。は。と。い。う。や。と。忙。しく。抱。き。あ。り。ま。ま。に。賺。じ。ら。て。涙。故。次
 涙。も。入。の。嶋。君。や。も。く。涙。が。と。め。この。小。船。江。が。兄。上。と。も。に。小。乗。れ。不
 身。も。後。より。あ。り。け。ん。と。ま。う。せ。か。も。鬼。夜。又。小。伴。止。て。る。小。底。不。滑。ひ
 居。り。初。も。く。船。江。と。あ。り。その。兄。上。の。宣。ひ。や。う。れ。の。家。小。走。り。ゆ。り
 父。上。と。船。江。と。あ。り。誘。ひ。と。あ。り。び。く。し。の。身。は。あ。ら。く。う。に。け。せ。上。相
 構。と。声。が。あ。り。と。あ。り。二。枚。の。書。翰。又。小。の。懐。ふ。は。一。入。れ
 け。慌。し。く。野。嶋。の。か。え。走。去。と。あ。り。その。後。と。て。音。げ。れ。り。し
 悲。し。い。あ。ら。も。あ。ら。ざ。れ。と。音。さ。せ。と。仰。せ。し。あ。ら。堪。忍。の。び。く。なり
 今。父。上。の。声。が。あ。り。と。あ。り。故。と。あ。り。の。涙。の。こ。も。あ。り。落。と。あ。り。の。ま
 声。が。あ。り。と。あ。り。し。と。あ。り。ほ。り。ぬ。吉。小。愛。と。あ。り。首。尾。又。告。と。あ。り。の。為。朝

いふ、不審で嶋君の懐に搔探り。件の書翰が引返し押戻らるる。一枚を熊江に遣書あて忠孝の二ツ小舟が来たかき自殺せよと書寫し。又一枚を為頼のころに書せし終善寺紙小舟に運びハ推けとてら流るかりけおとあて一旦熊江鬼夜又かきうけよはし報小乗てんとも父上のるおほのけ。ゆきひ館不走りゆり自害して失はれしやあてハ脱れども世小立へうもせりねりの死とて死なれぬ死するおちれ辱多しと日耳教訓したるれがらみのるおほひ當りて最期をいとがれぬ。と書せぬと健氣たに為朝と紙のうへに涙を落し大息ゆき宜少命。これ鬼夜又不賺まれ。大嶋が脱去り。却為頼熊江あに死後ししことを遠恨なれ。彼ホリ残ア留アねと考ふるは。さきさき子に惑溺し。いそくに落たりとんと。いれんが巧惜は不追急く。てあかひ。後中しく入水せむ。とおひしりの女あひらや。彼ホと死しわとひとり。この嶋が根に身くくんとは。とん流しとて蹉跎し。智勇か長名將も。この八千たび身を恨む。最期をいその灯け花の雲より先。流よと。嶋君がとくく。引よせ。氷なると刀が抜て既お刺んとあま折しも忽地一般の獵船。ころちかう。遊のかごより糟まり。かごとて声かぬり。とて。浦曹司。あてし。結めんと。咄とあけ。飛ぶごとくに棄て。そのお跳り入り。為朝が押隔く。嶋君を抱えとれりのあり。とて。この人。と誰と。次れ巻が。園とてあれど。

馬琴ゆきひ。按ぞね。不流布の保元物持。小嘉應二年四月下旬為朝



鳴君と
核ふ
喚夫と名て
やうれい
浪鬼

若くは花
死ふ活
今も挿挿
挿挿
竹青の月とさうりね
ありしや
川に流るるの陰小

伊豆の大嶋に於て自害し享年二十歳と見えたり。あつたはる同書
 に保元元年為朝十八歳とあはれなり。これを倭は嘉應二年
 至く二十八歳なり。宣なり。参考小諸本の異同。實録
 所見はし。亦い。京師本に為朝の自殺をり。二十八歳に。救
 原本二十八歳と。京師本鎌倉半井の四本。何の年とい。こ
 系圖小為朝安元二年二月六日。伊豆の大嶋に於て討つと見え。保元
 元年十八歳なり。安元二年當小二十八歳なり。その説。校原本と
 合と。以上要と。摘。又。即明神の縁起。兼安元年癸巳秋八月十五日。小嶋
 に於て自滅するとい。嘉應二年より。兼安元年に至る。相考ると
 四年兼安元年より。安元二年に至る。又相考ると。四年あり。諸説
 看と。これと。かくの。し。ち。は。は。為朝自殺の年月及び存亡も。し

より定る。おぼ。げ。し。と。見え。り。い。れ。ふ。ろ。く。あ。は。に。為朝大嶋に脱とあり。
 蹟。以。南。海。小。さ。め。ひ。し。と。い。ひ。け。く。も。故。な。れ。ふ。お。は。ら。の。弓。張。月。と。
 と。く。風。を。捕。り。影。を。追。ふ。の。草。紙。物。語。に。お。は。ら。の。一。條。の。と。諸。説。を。引。て
 補。ひ。と。は。し。も。め。ら。れ。ど。予。え。某。好。古。の。癖。あり。と。て。成。り。て。漫。小。蛇。足。の
 辨。を。添。ふ。所。謂。雞。頭。花。が。ら。し。裁。は。小。牛。車。に。用。は。れ。の。と。を。ひ。ら。き。し。

椿説弓張月後篇卷之三 畢

